

2013年度 凍土分科会報告

雪氷研究大会（2013・北見）において凍土分科会セッションおよび総会をおこなった。参加者は22名であった。

日 時：平成25年9月18日（木）18:00-20:00

場 所：北見工業大学 A106 講義室

講演会「自然環境下における土の凍結に関わるデータの収集と整備」（18:00-19:30）

過去に様々な機関／研究者が蓄積してきた自然環境下の地温や凍結深データが現在散逸の危機にある。こうしたデータの収集とデータセットの整備・活用や今後の管理・運営について議論する。武田分科会長（帯広畜産大）からの講演会の趣旨説明に続き、以下3つの講演があった。国内地温・凍結深データベース作成委員会（代表 海洋開発研究機構の斉藤和之氏）から、データの発掘・収集や電子化の現況が報告され、データセットの公開様式やタイムスケジュール、クレジットの記載法など具体的な問題点が議論された。北海道農業研究センターの広田知良氏からは、地温データ活用の一例として、除雪により土壤凍結深を制御する“野良イモ”対策法と、データに基づく除雪タイミングの予測と現場への普及例が紹介された。北海道大学地球環境科学院の石川守氏から地温分布による永久凍土の脆弱性の評価例と地温観測データ収集の概念が報告された。

分科会総会（19:30-20:00）

本年は役員改選の年にあたり、次期分科会会長に石川会員、幹事に渡辺会員、監事に末吉会員が選出された。昨年度の活動報告として、雪氷凍土特集号の発行、第14回および第15回「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援、分科会メーリングリスト・HPの維持が紹介され、H24年度の監査報告が示された。また、雪氷用語辞典の改訂と地温データセットの収集についての現状説明と、今後の予定が報告された。本年度の活動計画については、各集会、セミナーの後援の継続、日本の地温データセットの収集の継続が上げられ、永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会の極地研での開催時期や凍土研究に関する情報共有の促進について議論された。また、関連国際会議（EUCOP, IGS, 土壤水分ワークショップ など）の紹介がなされた。